

第1回松山市総合教育会議 会議録

【開会】

【挨拶】

(野志市長)

- ・金本委員長をはじめ、教育委員の皆様、本日は、お忙しい中、「第1回総合教育会議」にお集まりいただき、お礼申し上げます。
- ・昨年、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が改正され、本年、4月1日から施行となった。
- ・この教育委員会制度の改革に伴い、総合教育会議の開催や教育に関する大綱の策定など、首長に課せられた責任の重さを実感するとともに、これまで以上に、その責任をしっかりと果たしていきたいと考えている。
- ・これまでも、教育委員長や教育長と意見交換を図る中で、教育に関する諸施策の情報共有に努めているが、今回の法改正により、首長と教育委員会が一堂に会する「総合教育会議」という場を通じて、教育政策に関する方向性や課題等について、お互いに議論を尽くすことは、教育行政を推進していくうえで、大きな意義があると考えている。
- ・タウンミーティングをはじめ、現地・現場でこれまでいただいた市民の声を総合教育会議の場を通じて、教育委員の皆様と共有し、子どもたちの健やかな成長のために、前向きな意見交換をしていきたい。
- ・今後、少子高齢化・人口減少という時代を迎える中、地域の中核拠点都市として、将来にわたって活力ある持続可能な社会を維持し、「幸せ実感都市まつやま」を実現するための様々な施策を、重点的かつ戦略的に取り組んでいきたい。
- ・そのためには、子育て部門、福祉部門、教育部門、そして地域・企業と連携し、若い世代が安心して働き、結婚・妊娠・出産・子育てができるような社会環境を実現する取り組みが不可欠であり、学校や公民館など教育関係機関の果たす役割は、非常に重要である。
- ・これからの未来を担っていく子どもたちが、のびのびと学び、学んだことを将来の松山市のために活かしてもらえるよう、中・長期的な教育のあり方を見据えながら、教育の課題や目指すべき姿などをこの会議で議論していきたいので、教育委員の皆様、よろしく願います。

【議題(1) 松山市総合教育会議運営要綱(案)について】

(事務局)

～要綱(案)の説明～

(野志市長)

- ・このことについて、意見はないか。
 《意見なし》
- ・それでは、本要綱に基づいて、会議を運営していく。

【議題(2)松山市教育大綱について】

(事務局)

～松山市教育大綱の説明～

(野志市長)

- ・まず、私から大綱の策定方針について、発言させて頂く。
- ・平成25年3月に「第6次松山市総合計画」を策定している。
- ・この総合計画は、市政の最上位計画として、教育委員会も含め、全庁体制で策定したもので、私の公約や教育への思いはもちろん、議会や市民の声も反映しているため、総合計画を基本に教育大綱を検討していきたいと考えるが、いかがか。

(山本教育長)

- ・大綱の策定方法には、総合計画に基づく方法と平成26年3月に策定した教育振興計画である「まつやま教育プラン21」に基づく方法がある。
- ・総合計画は松山市の基本的なもので、教育部門もあるので、これをベースにすべき。
- ・比較すると、「まつやま教育プラン21」は、具体的な事業が載っている。
- ・大綱は方向性を示すもので、総合計画は教育プランに載っていない社会体育、スポーツや国際文化、国際交流もあり、総合計画を松山市の大綱としたので良い。

(牛山委員)

- ・総合計画は、わかりやすく、短いキャッチフレーズに、皆が共通のイメージがわかりやすい。
- ・あまりに細かいものを載せると自由度がない。
- ・これからのことを考えると、文化やスポーツ、子育て関連のことも記述がある総合計画を松山市の大綱としたので良い。

(松本委員)

- ・わかりやすく、伝わりやすい総合計画があるので、これに基づいたので良い。
- ・これを教育に活かしていきたい。

(金本委員長)

- ・大綱だから、教育全体を網羅した大きなもの、柱立てなので、総合計画に基づいたので良い。

(一色委員)

- ・総合計画は松山市の最上位の計画だから、そこに書いてあることを大綱としたので良い。

(野志市長)

- ・すべての委員さんにご意見をいただいた。
- ・それでは、本日いただいたご意見を参考に、本市の第6次総合計画の教育に関連する部分を「大綱」と位置付ける方向で検討していきたい。

【議題(3) 中・長期的な教育政策について】

特色ある松山の教育について

(野志市長)

- ・まず、私から発言させていただく。
- ・特色ある松山の教育について、よく市民の皆さんの前でも話をするが、「子は宝」という。
- ・将来の松山を背負って立つのが、この子どもたちの存在であり、将来の松山を担う子どもたちの健やかな成長は、市民誰もが願うことである。
- ・私のさらなる願いは、松山の子どもたちに、ふるさと松山に愛着や誇りをもっと持ってもらえたらと思う。
- ・私も中学は父親の関係で伊予三島に居て、高校時代は松山で過ごし、大学は松山を離れ県外へ行き、また松山に戻ってきた。
- ・将来、松山を離れることがあってもふるさと松山のことを忘れない。
- ・また戻りたいと思ってもらえる様に、松山の良さを知ってもらいたいし、学んでもらいたいと思う。
- ・ふるさとを愛する心は、将来どこで生活することになっても、たくましく生きていくことや人と豊かにつながっていくための心の支えになるのではないかなと思う。
- ・人口減少、人口減少とよく言われるが、松山に戻ってもらいたいというのが正直な気持ちである。
- ・地方創生の中で、人口減少問題対策を検討しているところだが、その一つとしてふるさとを愛する人たちを育てていくことも大事ではないかと感じている。
- ・ふるさと松山を愛する教育を松山の教育の特色として推進していくことに対して、教育委員の皆様は、どのように感じておられるかお伺いしたい。

(山本教育長)

- ・教育長をしている立場で発言させてもらう。
- ・ふるさと松山を愛する教育ということで、平成23年から「ふるさと松山学」という子どもたちに対する松山独自の教材を作って、授業でも使っている。
- ・例えば、松山の俳句に関する正岡子規を紹介した子規の人生と俳句に関する教材は、全3冊構成で、俳句の作り方から子規の人生の履歴を含めたもので、小学校の低学年から高学年用、中学生用ということで、発達段階に応じて分けている。
- ・もう一つは、読み物教材ということで、松山の先人、秋山兄弟や正岡子規、和田重次郎など、松山にゆかりのある人物を取り上げた読み物本で、これも発達段階に応じて、小学校の低学年用と中学年用が3冊、小学校の高学年用と中学生用が3冊となっていて、松山の偉人を紹介したものがある。
- ・この読み物教材に関しては、金本委員長が編集委員でもあったので、金本委員長から話していただくと一番分かりやすいのではないかなと思う。

(金本委員長)

- ・市長が言われるふるさと愛、ふるさとを愛するためには、「知即愛」、知ることが即ち愛である。
- ・松山に住んでいて、松山の人物を知らなくて、松山への愛が生まれるのか、やはり松山を知ることが愛につながる。
- ・そのために3,000万円という予算で、平成23年に作ったもので、委員会として

も、学校へ配る教材としては、莫大な予算であった。

- ・教育委員会がこの教材をどのように活用して、ふるさと松山学の実践をどう深めていくかが、問われている。
- ・これから、道德教育が教科になっていくが、道德教育で活用すれば、ちょうどいい題材、分量で、松山の先人のことを記した資料である。
- ・新井 満氏の「春や昔」で、ふるさとのことが出てくるので、音楽分野でも使えるし、これをどう活用して深めていくかが課題である。
- ・最後に、私が夢見るのが、発起人の一人として、この本をなんとか市販できないかということ。
- ・市が作成した資料集なので、一般に売るとなると、色々あると思うけれど、松山市民が読んでも分かりやすい。
- ・坊っちゃん鉄道、軽便鉄道を作ったのは最初の伊予鉄道の社長だが、松山市民は案外知らない。
- ・日本最初の軽便鉄道であり、蒸気機関車は横浜、軽便鉄道といわれるレールの狭いミニチュア列車が全国初で走ったのは松山ということ、大人の人にも知っていただきたい。
- ・そのためにはもう少し学校で広めるのも方法だし、読書などで広める方法もあるが、学校だけでは少しもったいない気が個人的にしているので、せつかくあるのだから、市民に広げる手立てを考えてもらいたい。

(一色委員)

- ・私は、観光業界に身を置いて、先頭に立ってふるさと創生、地方創生で観光を目玉にして振興しようとしている。
- ・常々思うことは、観光客を呼び込むというか、一人でも多くの方に松山・道後温泉に来ていただく、人をお招きする場合には、市長がいわれたとおり、地元に住んでいる人が、地元に対して愛着なり誇りなり自信をもってないと人様に来て下さいとお勧めするわけにはいかないし、なかなか来ていただく方々に失礼な話になる。
- ・ふるさと松山の教育をしていただくと、子供の頃から地元についてよく知っていただき、知ることによって、さらに愛着がわき、誇りが持てる。
- ・また、子どもが体感するには、地元に住んでいるだけでは比較ができないし、なかなか良さが分からないので、機会があれば外に行って、他所を見てもらうことも必要。
- ・もちろん、修学旅行もその一つだろうが、市長のように大学で県外に行き、住んでみると地元と比較でき、良さが分かり、そして、やっぱり松山へ帰って生活しようという心が生まれてくると思うので、これからの人口減少社会の中では、この教育は大事だと思う。
- ・観光面でも、こういうことを子どもの時に身に付けていただくことが、非常に重要なことだと思うので、ぜひお願いしたい。

(松本委員)

- ・子どもたちも、大人も、松山のことを知っているようで実は知らない。
- ・その中で紹介のあった書籍のように、松山の偉人を紹介する機会はとてもいいことだと思う。
- ・これはある意味、郷土愛を育むとともにキャリア教育にもつながっていると思っていて、子供たちが、これからどうしようかとしている時に、自分たちの住んで

- いる松山にはこういうすごい人がいて、時代時代にこういう風な生き方をして、そしてこういう風に働いて社会貢献した、という所から学んでいくことは、すごく良い身近なキャリア教育になると思うので、多くの方に知ってもらいたい。
- ・地元志向といいながらも大学進学で外に出ていく子どもが多くて、そのまま就職してしまう。
 - ・松山に帰ってこない人があったとしても、心のよりどころとして、松山が残っていて欲しい。
 - ・また、「大学を卒業したら、松山に帰りたい。結婚して、子どもを産んで育てるのは松山だ」と思ってもらえる教育となるように、教育委員会としても頑張っている。
 - ・やはり、地域、松山を支えていくのは、松山の子どもたちだと思っていて、まずは、学校という所が子どもたちの記憶に一番大きく残る場所で、学校での生活が楽しかったり、温かい環境であったりすることが、子どもにとって素晴らしい郷土愛につながっていくのだと思う。
 - ・郷土愛という点においては、今、公民館を中心に各町内会がいろんな行事をしているが、それぞれの地域、町ごとの行事を通して、子どもたちに地域の伝統や文化に関わらせることで、自分の住んでいる街に愛着が湧いてくる。
 - ・松山市を出たことがなければ比べようがないが、松山の良さを知っている人は、「松山はここと比べてこういう所がいいよ」ということを言うことも大事だなと思う。
 - ・松山の子どもたちは、すごく良い環境で育まれていると思うので、それを子どもたちにも知ってもらい、それが郷土愛につながるのではないかなと感じている。

(金本委員長)

- ・公民館のことが出たので、付け加える。
- ・松山には41公民館があるが、先ほどの先人については、41公民館すべての先人をバランスよく取り上げている。
- ・この先人100というのは、実際は108のエピソードになっていて、小学生低学年用、小学生高学年・中学生用の発達の段階があるので、2つに分けて伝記をまとめている。
- ・また、正岡子規をガイドにして、俳句や短歌などいろんな文学の教材として、小学校の1から3年生用、小学校4から6年生用、中学生用として3冊に分け、小学校1年生から学習して中学3年で完了する形で作っていて、小学生の場合は「のぼさん」、中学生では「子規」と呼び名も変えている。
- ・日本で誇る、一番おすすめの本である。

(野志市長)

- ・この本が、各公民館すべての先人をバランスよく取り上げていて、小学生、中学生向けとなっていることを教えていただいた。
- ・高校や大学、大人になって松山へ入ってくる人、そういった方々にも松山のことを知っていただく必要があり、まさにそれが「知即愛」につながると思う。
- ・本の整理をしていると、難しい本はなかなか読めないけれど学校の教科書だと読みやすいので、松山ふるさと学の本を大人の方、各地区の方にも読んでいただきたいと改めて感じた。

(牛山委員)

- ・愛媛大学も共通教育の中で「えひめ学」というものに取り組んでいる。
- ・愛媛大学では、地域と密着していこうということで、地域の活性化や再生に取り組む、新しい学部ができる。
- ・私は、松山育ちで、市長と同じようにUターンで帰ってきた。
- ・高校時代には、松山では物足りない部分を感じて、県外の大学に行こうと思っていて、若い時期は、何か東京や大阪が持っている街のパワーにひかれていくものだ。
- ・実際、東京の大学に行って、そして1年務めた時に見えてきたものが、私にとってはふるさととのつながりがあったのではないかと思う。
- ・愛媛大学に勤めて、正岡子規などの知識は後から入ってきたが、私にとってのふるさととのつながりとは、実は、うちのおばあちゃんだった。
- ・おばあちゃんが作ってくれた松山のちらし寿司の味や、母がよくお遍路さんのお接待のお世話をしている、お饅頭があったら、ふたつに割って大きい方を相手にあげなさいといわれたこと、母や祖母、近所のおばちゃんの顔が、思い浮かぶ。
- ・コミュニティやお付き合いといったものは、どこでもあることかもしれないが、松山には、郷土の中で培われてきた温かいお接待の心がある気がする。
- ・そういったことを話していく機会が、子どもたちを育てていくのかなと思う。
- ・私のように、帰ってきたいと熱望している人がいるので、こうした話をずっとしていくことが、「えひめ学」のもう一つの姿かなと思っている。

(山本教育長)

- ・この本は、各公民館にも配っていて、地区の方も見られるようにしている。
- ・もう一つ追加すると、先ほど松本委員さんが、高齢者と子どもたちが交流して、地域の伝統文化を学ぶこともいいと話したが、実際、松山市ではドリームプランを松山らしさ、ふるさとを愛するという形で、各学校から地域の特性に応じた提案型の事業として展開している。
- ・内容によっては、地域のお年寄りと交流して地域の文化を学び、例えば、農作業の体験で作物を作ったりして、各学校単位でいろいろな体験をしている。

(野志市長)

- ・皆さんから異口同音で、ふるさと松山のことをもっと知ってもらいたいのではないかという意見をいただいたので、参考にしたい。

教育環境の整備について

(野志市長)

- ・教育環境の整備について、今、松山市では小学校、中学校へエアコンの整備を進める大きな方向性を示している。
- ・理由を説明させていただくと、私は東京に出張していて東日本大震災に遭遇し、羽田空港のロビーで新聞を敷き、コートを掛けて、一夜を明かしたが、余震もあったし、寒く固かったしでなかなか眠れない経験をした。
- ・つい先日、中核市市長会が東京であり、その会議中にも関東で震度5強、東京では震度4の揺れを感じた。
- ・南海トラフを震源とした地震は、いつ起こってもおかしくないと言われている。
- ・子宝として、子どもたちの安心・安全は勿論のこと、学校というのは避難所になるので、子どもだけでなくおじいちゃん、おばあちゃんもそこへ避難してくるこ

- とになる。
- ・私も意識と知識を深めるということで、防災士の資格を取り、その中で勉強したのが、避難所に避難してくるお年寄りには慣れない所で生活することになり、トイレへ行かなくていいように、水を断る傾向があり、水を飲まないといふ余計体調を崩しやすくなるということを知った。
 - ・子どもたちだけでなく、避難所としてお年寄りが生活する場となるので、エアコンの配備は必要と考える。
 - ・和式トイレだと、お年寄りは余計行きにくくなるため、洋式トイレの配備を進めている。
 - ・エアコンなんてちょっと贅沢じゃないかと言われる方もおられるが、我々の子ども頃は、夏は30度くらいが最高気温だったのが、今は、36度まで確実に上がっていて、熱中症対策も含め、子どもたちが授業に集中できるように学習環境を整備する必要がある。
 - ・校舎の耐震化も当初の計画より前倒しして実施しているが、タウンミーティングで、市民からエアコンの配備を求める声をよく聞いているので、私としても、松山市の財政を見ながら優先順位を決めて、費用対効果に優れた整備をしたいと思っている。
 - ・教育環境の整備について、教育委員さんからご意見をいただきたい。

(牛山委員)

- ・大学では、体育館を除いた普通の講義室や大講義室にエアコンをつけている。
- ・これだけ、日本の中でエネルギー問題があつて、エアコンはどうなのかなということはあるが、エアコンをつけても集中的な温度管理をしていけば、省エネ対策となり、コストも変わってくる。
- ・私自身は、エアコンをつけることはすごく賛成だが、ただし冷やし過ぎない、暖房だと暖め過ぎない、その管理も一つの学習で、人間の体温がどういう風に管理されるのかがいいのか、人の体ということで、保健の授業などで子どもたちにきちんと学ばせることが、温度管理の大切さを知るといふ教育につながっていくのではないかと思うので、私は、エアコンをつけた方がいいと思う。

(一色委員)

- ・私は交通機関の業界に身をおいているが、交通機関は全てエアコンが入っている。
- ・市長が言われたように、私たちが子どもの頃は31度、32度で暑いと言っていたが、世の中が変わり、今は、38度とかそういう時代である。
- ・やはり、各家庭にエアコンがあるので、財政問題はあるけれど、学校にも順次、整備してもらいたいと思う。
- ・それから、牛山先生からもあつたように、私たち交通機関で苦情があるのは、冷房が効きすぎて寒いとか逆に暑いとかの苦情がある。
- ・寝冷えして冷えているのに、更に冷やされて余計に悪くなったという苦情が交通機関にはよくあるが、それは管理をどうするかの問題なので、それも一つの学習としてやらなければいけない。
- ・もう一つ、よく集まる苦情は、トイレの問題である。
- ・東京の地下鉄やJRはもちろん、松山空港や松山観光港ターミナルでも、やはり、トイレが一番大事で、トイレはほとんど和式から洋式に変わってきているが、トイレや空調の関係で苦情がある。
- ・これからの子どもは、おそらく、家庭は全て洋式トイレになっていて、それが当

たり前だから、財政の問題はあるが、学校も整備が必要であるため、是非、お願いしたい。

（金本委員長）

- ・松山市に唯一の中学生の寮である中島の青潮寮は、各部屋にエアコンがついていて、時代は変わったと思う。
- ・何が言いたいかというと、エアコンをつけることは大賛成だが、その為に子どもたちの耐性、耐える心、我慢する心、忍耐力、そういう強い心をどこで育てているのか、そういう課題は残るのではないかと思う。
- ・寮で言えば、その前は、エアコンもなければコタツもなく、コンクリートの建物で全く火の気もない中、子どもたちは頑張っていた。
- ・寮生は手がしびれ、鉛筆が握れないので、軍手の先をちょん切って、夜中の1時も2時も受験勉強をする、そうした中で育っていった子どもたちに耐える心はある。
- ・エアコンで快適な空間を作る時代になっているし、まして、学校は避難所になるので、お年寄りのためにも必要だ。
- ・エアコン整備には賛成であるが、逆に、だからこそ、子供たちのたくましく育てる、鍛える、そういう教育をどこで作っていくかというのが、これからの課題になる。

（松本委員）

- ・私も是非、クーラーをつけていただきたいと思う。
- ・やはり、砥部中学校のように、近隣でクーラーのある中学校があったり、市内でも私立の子どもたちは涼しいところで勉強していたり、体力のある中学生、高校生、大学生がクーラーのあるところで勉強している。
- ・集中力が足りない、非力な小学校1、2年生が暑い中で学ぶとなると、体調的なことも心配である。
- ・時期によっては、クーラーと扇風機を使い分けてもいいし、勉強の能率が上がるような環境があればと思う。

（山本教育長）

- ・現在、普通教室では、扇風機でしのいでいる状況。
- ・保健室やパソコン室は、クーラーを完備しているが、こういう時代の中でエアコンは無くってはならなくなっている。
- ・話にもあった35度、36度という猛暑日という時代の大きな流れの中で、市長のご英断で、やる方向となった。
- ・どういうやり方でやっていくかということで、実際、ざくっとした試算では、普通教室だけで約35億円、プラス特別教室に設置すると約52億円という初期の整備費と8千万円から1億2千万円のランニングコストがかかる。
- ・費用対効果、経済状況、予算との兼ね合いの中で、今年、教育委員会としては、どういうやり方がいいのかという視点で進めている。
- ・市長の指示の下、やるという前提で進めさせてもらっている。

（野志市長）

- ・耐震化はどのくらい進んできたのか、もうおおかた終わるくらいか。

(山本教育長)

- ・当初、平成33年度に完了予定であったものを29年度に前倒ししていて、27年度予算が終わったら94.7%、29年度には100%になる。
- ・少しでも早く安心・安全な教育環境は必要なので、できれば少しでも前倒しにしていけたらと思う。

(野志市長)

- ・就任した当時、公共工事、公共工事と言われ、無駄な工事はやってはいけないと思っていたが、耐震化は、まさに有効な公共工事だと思ったので、平成33年度に校舎耐震化の工事を完了する予定だったのを、平成29年度に大きく4年前倒しさせていただいた。
- ・エアコンの配備で、一つ後押しになるのが、松山市の小学校、中学校へのソーラーパネル設置で、そのあたりで省エネを図ろうと思っている。
- ・松山は、確かに雨は少ないが、前向きな思考で逆に考えると、太陽がさんさんと降り注ぐところであり、日照平均は全国平均を上回っている。
- ・そこで、松山サンシャインプロジェクトということで太陽光発電関連企業を誘致し、ソーラーパネルの設置をすでにやっていたことが一つ後押しになったと思っている。
- ・もう一つ、金本先生からあった耐性のことだが、これからとても大切だと思う。
- ・大人になって、ともしんどい場面は誰でもあると思うが、私が一番大変だったのが野球だった。
- ・3拍子そろった、守れない、打てない、走れない選手だったので、中学校の野球部ではずっと裏方で、よく走らせていただいたし、本当に厳しかった。
- ・いろいろ厳しかったから、耐える力も身に付いて、礼儀も教えていただいた。
- ・中学校の時、しんどい思いをさせていただいたので、今でも振り返って、あの時、相当しんどかったけど、あれから比べたらまだ楽だなと思うことがよくある。
- ・中学時代、大学時代も厳しいクラブに入り、しんどい経験は時折思い出すので、耐性、耐える力は大事じゃないかと感じた。
- ・いい頃合いになったが、せつかくの機会なので、その他に、何かないか。

(山本教育長)

- ・テーマはいろいろあるので、また次回、話したいと思う。

(野志市長)

- ・教育委員さんとこのように議論することができたのは、とても有意義な機会になった。
- ・次回は年内に開催したいと思うがよろしいか。
 《 教育委員 了承 》
- ・ご賛同いただいたので、次回、総合教育会議は年内に開催したいと思う。

【閉会あいさつ】

(金本委員長)

- ・あっという間に過ぎたが、第1回の総合教育会議は壁がないというか率直に意見交換ができ、いい気持ちである。
- ・松山には現在、小中学生が3万9338人、約4万人いて、この子供を支えている

親や地域の市民のために、学校教育や生涯学習の中で、どういうことを進めていけばいいのかを忌憚のない率直な意見交換ができた。

- ・もっと時間があれば、教育センターの話など色々話せたが、それはまた、次回にしたいと思う。
- ・また、具体的な話をしていきたいと思うので、市長さんからも率直な意見を言っていただきたい。
- ・今日の総合教育会議が、そういう場の形成になったことを非常に嬉しく思う。
- ・野志市長にお礼申し上げる。

【閉会】